

科目名	担当教員名	学期
<p style="text-align: center;">M&amp;Aとコーポレート・ガバナンス M&amp;A and Corporate Governance</p>	<p>四方 藤治</p>	<p>前期</p>
<p style="text-align: center;">目 的</p>	<p>M&amp;Aは、企業の多様な戦略的事業課題を「非連続的」に達成するために利用される手段であり、高度な投資意思決定問題であり、優れて目的的・能動的な「総合格闘技」である。</p> <p>本講義では、事業法人におけるM&amp;AおよびM&amp;Aにおける「コーポレート・ガバナンス」について、理論的論点を概観する一方、実務家の観点からの多面的な諸問題について言及する。M&amp;Aに関する実務経験のない受講生にも理解できるよう、出来るだけ具体的に解説する。</p> <p>M&amp;Aの実践では、M&amp;Aのメリットとデメリットや限界を均等に理解することが必要であり、事業戦略に応じて適切な手法を選択できる広範囲で実践的な知識を蓄積することが重要である。</p>	
<p style="text-align: center;">概 要</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 事業法人におけるM&amp;A実務（目的、機能、プロセス）と諸課題</li> <li>2. 買収ストラクチャリングの課題</li> <li>3. M&amp;Aの法的論点</li> <li>4. 企業価値評価の手法と実際</li> <li>5. 国際的M&amp;A行動での問題</li> <li>6. M&amp;Aにおけるコーポレート・ガバナンスの論点</li> </ol> <p>4～5回程度、予習を兼ねて、次回講義に関連する「予習クイズ」を出題し、提出を求める。</p> <p>受講者は、「M&amp;Aにおけるコーポレート・ガバナンス」に関して、自らの問題意識と関心領域を明らかにした上で、適当なテーマを選び、研究を行い、その成果をレポートとして発表する。</p>	
<p style="text-align: center;">到達目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 事業法人におけるM&amp;A行動の特性と実務の流れを体系的に説明でき、M&amp;Aの限界と可能性を考察できるようになる。</li> <li>2. M&amp;Aにおけるコーポレート・ガバナンスの様々な問題に対して、自らの視点から考察できるようになる。</li> </ol>	
<p style="text-align: center;">成績評価の 基準と方法</p>	<p>授業（含む、「予習クイズ」の提出）への貢献度（30%）、グループレポート（20%）理解度チェック－1（20%）、理解度チェック－2（30%）で評価し、100点満点で素点を計算する。この素点が60点以上の学生を合格者とし、相対評価比率に合致するように、素点順にA、B、C、Dの評価を決定する。不合格者（E評価）は、素点ベースで60点未満の者とする。</p>	
<p style="text-align: center;">履修条件</p>	<p>コーポレート・ファイナンス、会計、法務（特に、商法・会社法・金商法）、税務についての基礎を理解していることが望ましい。</p>	

授業計画	
第1週	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イントロダクション</li> <li>・事業法人にとってM&amp;Aとは何か、M&amp;Aの企業価値への効果</li> </ul>
第2週	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業価値とは何か</li> <li>・株主利益最大化とは何か</li> <li>・コーポレート・ガバナンスとは何か</li> </ul>
第3週	<ul style="list-style-type: none"> <li>・M&amp;Aの定義</li> <li>・M&amp;Aとファイナンス</li> <li>・事業法人におけるM&amp;Aの実務（全体プロセス）</li> </ul>
第4週	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業法人におけるM&amp;Aの実務（個別プロセス）</li> </ul> 基本戦略の策定、チーミング、ストラクチャリング（組織再編形態）、初期的企業価値評価と初期的交渉、基本合意、デューディリジェンス、企業価値評価、交渉・最終契約・クロージング、PMI
第5週	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別トピック： 買収ストラクチャリングの諸課題（組織デザイン、競争優位、シナジー） 組織再編の会計処理と税務</li> </ul>
第6週	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別トピック：実際のM&amp;A行動上の諸課題</li> </ul>
第7週	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別トピック：企業価値評価の手法と実際</li> </ul>
第8週	<ul style="list-style-type: none"> <li>・M&amp;A実務家のゲストスピーチ</li> <li>・まとめと理解度チェックー1</li> </ul>
第9週	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別トピック：PMI、M&amp;Aの勝因と敗因、M&amp;Aコンピタンス</li> </ul>
第10週	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別トピック：M&amp;Aの論点（親子上場、MBO、株式持合い）</li> </ul>
第11週	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別トピック：国際的M&amp;Aの問題（アジア・中国のM&amp;A、海外取引の問題、国際カルテル、海外腐敗行為）</li> </ul>
第12週	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別トピック：M&amp;Aにおけるコーポレート・ガバナンス（敵対的買収、経営者の防衛行動、会計不正）</li> </ul>
第13週	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ発表とディスカッション、講評</li> </ul>
第14週	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理解度チェックー2</li> </ul>
第15週	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ発表とディスカッション、講評（受講者数・グループ数による）</li> <li>・事業法人のM&amp;Aにおける今後の課題とまとめ</li> </ul>

<p>テキスト 参考書等</p>	<p>【テキスト】教科書は特になし。講義資料を中心に、適宜資料を配布する。</p> <p>【参考書】必読ではないが、関心のある課題に応じて適宜参考にされたい。</p> <p><u>M&amp;A</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『企業内プロフェッショナルのためのM&amp;Aの技術』四方藤治著（中央経済社、2015、5刷）</li> <li>・『M&amp;Aマネジメントと競争優位』中村公一著（白桃書房、2003）</li> <li>・『企業価値評価ガイドライン（改訂版）』日本公認会計士協会（日本公認会計士協会出版局、2013）</li> <li>・『海外M&amp;A 10の法則』中田順夫著（日経BPコンサルティング、2013）</li> <li>・『海外大型M&amp;A大失敗の内幕』有森隆著（さくら舎、2015）</li> </ul>
<p>その他 特記事項</p>	<p>受講者は、シラバスに記載されたテーマに関連する基礎的概念や一般的論点について、予め学習しておくことが望ましい。また、講義後の復習によって、講義内容の理解を確認すると同時に、主体的考察を行なうことが強く推奨される。グループ発表はそのような作業の結果として評価される。</p> <p>※ 2013年度以前入学生の科目名称は「企業買収とガバナンス」となります。</p>